

農業用資材の「再利用」と「代替対応」 実践ガイド（暫定版）

～世界情勢に左右されない、強い農業経営を目指して～

世界的な物価高騰が続き、農業資材の確保や経費の抑制が大きな課題となっています。こうした時だからこそ、今ある資材を「大切に、長く使うこと」が経営の安定に直結します。

本ガイドでは、資材の寿命を延ばし、不要な支出を減らすためにできる、日頃のちょっとした手入れ方法についてまとめました。

ぜひ圃場や事務所に備え、日々の管理チェックにご活用ください。

宮崎県営農振興協議会 (宮崎県・JAみやざき)

令和8年6月作成

農業用資材の再利用及び代替資材利用時における留意点

育苗ポットやハウスビニール（長期展張タイプを除く）等の農業用資材は、通常は単年（単作）使用が前提とされるため、再利用（連用）することによって、資材の汚れや劣化等により生育不良や病害虫の発生等が助長される恐れがあります。

また、育苗ポットやポリマルチ等の代替資材は、価格の高いものが多く、生産コストが増加することや資材効果が従来品と異なることが懸念されます。

このため、農業用資材の再利用や代替資材の利用を行う場合は、次ページに示す留意点を十分に確認した上で、ご使用ください。

※特にかん水チューブ、保温用フィルム

併せて、病害虫対策の観点から、ほ場周辺の除草を徹底しましょう。

① かん水チューブ（点滴チューブは除く）の徹底洗浄

1. チューブの破れや折れ、接続部分の劣化状況を確認します。
2. 末端を解放し、勢いよく水を通して泥や砂・ゴミ等の濁りがなくなるまで汚れを洗い流します。



末端を解放して水を流す



洗浄時の汚れ

3. チューブ用フィルターを使用している場合はフィルターを洗浄します。
4. 汚れが取れにくい場合は、チューブの内径程度にカットした台所用スポンジ等をチューブに入れ、水で押し出し洗い流します。



スポンジの切り取り



汚れと一緒に出てきたスポンジ

5. 水だけで落ちにくい汚れがある場合は、市販の専用洗浄剤を使用します。
6. 使用後は十分に水を流し、洗浄液や汚れが残らないようにします。
7. チューブの外側も汚れがひどい場合は、巻き取って洗浄剤に2～3日つけ込んだ後、洗浄液や汚れが残らないように、よくすすいでください。



チューブの巻き取り



洗浄剤につけ込み

※かんチューブを洗浄する場合は「チューブクリーン」、消毒する場合は「アグリクロール」などを使用してください。

※塩素系洗浄剤と酸性洗浄剤は絶対に混ぜないでください

※洗浄剤は製品のラベルにある使用方法に従って使用してください

② ビニールの洗浄

1. 展張したまま、動力噴霧機の水圧を利用して表面の砂埃や泥を洗い流します。
2. 落ちにくい苔や汚れは、中性洗剤とスポンジで優しく落とします。
3. 洗剤が残らないよう水道水でよくすすぎ、両面をしっかりと乾かします。
4. 洗浄中に見つけた破れや穴は、専用の補修テープ等で塞いでください。
5. ビニールを外した後は、湿気のない冷暗所で、シワにならないよう丁寧に畳んで保管します。
6. 保温用フィルムは、洗浄して保管します。
古い資材を再利用する場合には、施設内に持ち込む前に、作物に予防的に銅剤を散布し、資材を展張した後に再度、作物に銅剤などを散布します。



洗浄前



洗浄後



古い保温資材も汚れている

③ 除草対策

1. 害虫の寄生先をなくすため、ハウスの周囲は常に除草された状態を保ちます。
2. 生育期には即効性のある茎葉処理剤を使い、害虫のすみかを素早く除去します。
3. ネットの隙間やハウスの際など、手作業が難しい場所こそ薬剤を徹底します。
4. 除草剤が周辺の作物等に飛散することがないように、風の弱い日に散布します。

【参考】 薬剤による除草効果の事例

ザクサ液剤



無処理

※令和7年10月28日に除草剤を散布し、翌年5月18日時点（散布202日目）の雑草の状態

※ハウス周りで使用できる除草剤は、「ラウンドアップマックスロード」、「ザクサ液剤」、「バスタ液剤」、「コンパカレール液剤」などですが、ハウス内で栽培している作物に登録がないと使用できません。登録作物は必ず農薬ラベルでご確認ください！

農業用資材が確保できない場合の対応

対象資材名	推奨される具体的対応
展張用POフィルム	フィルム洗浄剤を活用し、透過率を維持しましょう。 対用年数を経過している場合は数カ所のための張り替えを実施してください。
UVカット・散乱光フィルム	入手可能な汎用フィルムへ転換してください。
かん水チューブ	再利用を優先し、栽培開始時には目詰まり等のチェックを行ってください。
土壌消毒用古ビニル	代替資材が確保出来ない場合は、土壌還元消毒または湛水処理への切り替えを検討しましょう。 太陽熱消毒への完全依存は避け、農業指導員等と協議の上で、適切な技術を選択してください。
送風ダクト	必要に応じて補修、消毒しながら再利用してください。
バンド / 誘引ひも	汎用のひも類で代替しましょう。 既存バンドは切断・損傷が無い限り再使用してください。
補修テープ	一般粘着テープ、布テープで代替。 使用前に耐候性、強度を確認してください。

詳細については、最寄りの JA 営農窓口 または 農業改良普及センターへお問い合わせください。

今後、追加の技術情報等は、宮崎県庁ホームページ（ひなたMAFiN）や JA みやざきホームページで随時掲載していくこととしておりますので、ご確認ください。

宮崎県営農振興協議会